

若年性認知症

◆ 若年性認知症とは

18歳以上65歳未満で発症する認知症は、「**若年性認知症**」と呼ばれており、平均約54歳で発生すると言われています。

高齢になってから発症する認知症と比べて、脳の萎縮スピードが速く、病気の進行が早くなる場合があります。

全国に35,700人^{*}、埼玉県内には、およそ2,200人^{*}の患者の方がいると推計されています。

※ 推計方法 18～64歳人口10万人あたりの若年性認知症者数 50.9人（出典：令和2年7月27日 東京都健康長寿医療センター発表「わが国の若年性認知症の有病率と有病者数」より
県推計値は令和2年1月1日現在の県18～64歳人口約4,355千人を基に算出

◆ 若年性認知症の特徴

厚生労働省の実施したアンケート調査^{*}によれば、**発症後7割の患者が収入が減った**と回答しており、経済的に困難な状況に陥ることが課題です。

また、**家族介護者の約6割が抑うつ状態**にあると判断されており、本人だけでなく家族への支援も重要な課題となっています。

認知症が原因の仕事上のトラブルやうつ状態を、**ストレスや年齢のためと感じて見過ごしたり、他の病気と勘違いしてしまう**ことがあります。

早期発見のために、何かおかしいと感じた時に認知症のチェックリストを利用して、本人や周囲の人による点検を行うことが推奨されます。

患者が働き盛りの年齢で、経済的な打撃が大きいほか、子育て年齢とも重なり、介護する家族への影響が非常に大きいことから、**雇用の継続や新たな雇用確保、家族への支援など、社会で支えて行く体制の構築が必要**となっています。

※平成21年3月19日厚生労働省発表「若年性認知症の実態と対応の基盤整備に関する研究」の調査結果による

◆ 若年性認知症の兆候の例

- ・ 料理のメニューが少なくなり、同じ料理が短いスパンで出てくるようになる。
- ・ 買い物がかまどできなくなる。（メモ通りに買うことができない、支払いがかまどできないなど）
- ・ 公衆トイレに入っても壊れていると言ってすぐ出てくるようになる。
- ・ 銀行のATMがかまど使えなくなり、何度も行列のうしろに並ぶことが続く。
- ・ 些細なことで頑固になり、うつ状態が続く。
- ・ 仕事の失敗で、部署の異動が短い期間で繰り返される。